

手術記録 (白紙汎用)

【手術日】 2011 年 01 月 20 日 (年齢: 2 歳 11 月)

【術前診断】 臍ヘルニア 【術後診断】 臍ヘルニア

【術式】 根治術 (鎌形法)

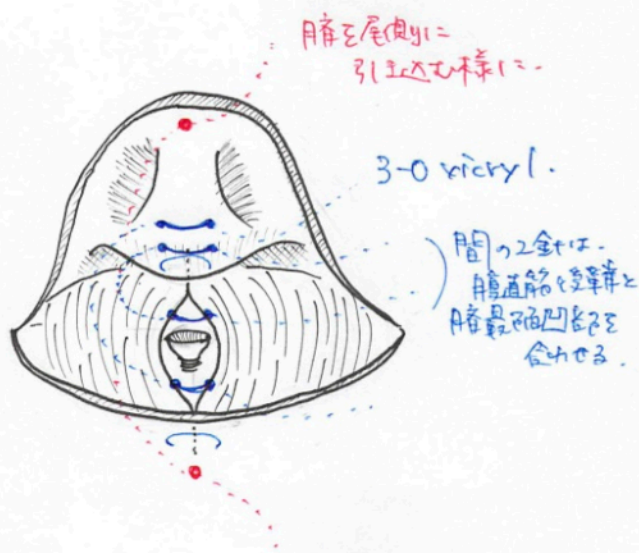
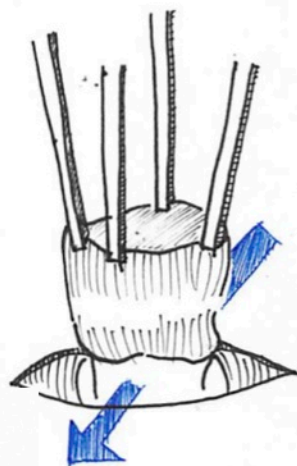
【体位】 仰臥位 【麻酔方法】 全身麻酔+局所麻酔

【術者】 柴田涼平 【助手】 小森広嗣、大場豪

【手術時間】 45 分

【出血量】 少量 【輸血】 なし

【内容】



【Short summary】

臍輪は直径10mm、ヘルニア門は小さく3mm程度で余剰皮膚も少ない。臍部中央に瘢痕隆起部あり。

【内容】

01. 臍輪下縁に1/3周の弧状切開を置いた。
02. 電気メスで皮下組織を展開し、臍ヘルニア嚢を露出させた。ケリー鉗子でヘルニア嚢周囲を左右から剥離し交通させてネラトンチューブを通し、チューブ直上でヘルニア嚢を電気メスで切断した。
03. ヘルニア嚢をKocher鉗子で4点把持し、腹腔内との交通を確認。ヘルニア門は3mmでヘルニア内容は認めず。
04. 腹直筋前鞘のレベルでヘルニア嚢に電気メスで切離ラインをマーキングした。メッツェンバウム剪刀で周囲組織に小さく切を入れながら硬い組織を全周性に削ぎ落とし、腹膜前層に入り腹膜を露出させた。3-0 vicrylで2針の刺通結紮をかけ、ヘルニア嚢と周囲組織をメッツェンバウム剪刀で切除した。
05. 臍窩に左示指を入れ、翻転させながら臍皮下裏面の瘢痕組織をトリミングし、十分に臍が陥凹することを確認。トリミングは不要と考えた。
06. 3-0 vicrylで腹直筋を4針で閉鎖。頭側と尾側の辺縁は腹直筋全層にかけた。その間の2針は腹直筋後鞘→臍の最陥凹部皮下→腹直筋後鞘とかけanchoringした。また、尾側端の糸より約5mm下方の腹直筋前鞘と臍下縁の皮下を縫合し、臍を尾側に引き込み、上向きにした。
07. 皮膚は5-0 PDSで真皮縫合と結節縫合を組み合わせで閉創した。終刀。